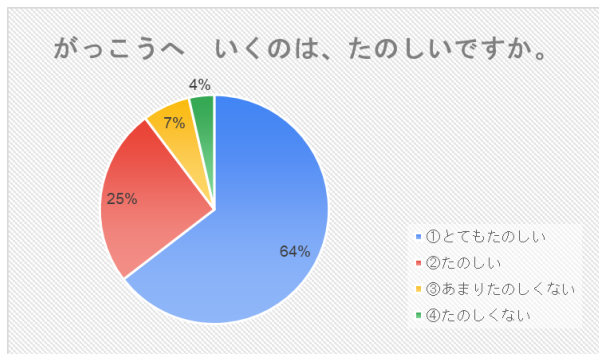


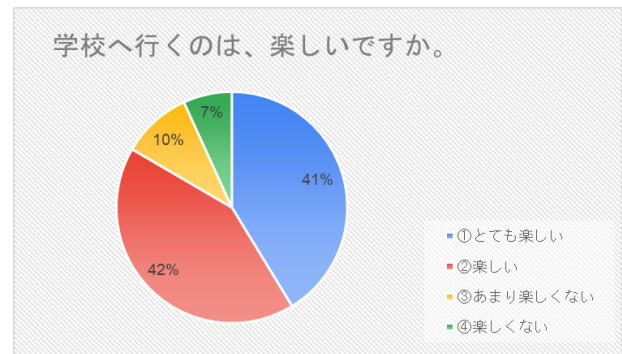
令和6年度 中塩田小学校 学校自己評価 中間報告（児童・保護者）

1. 学校に通うのが楽しい

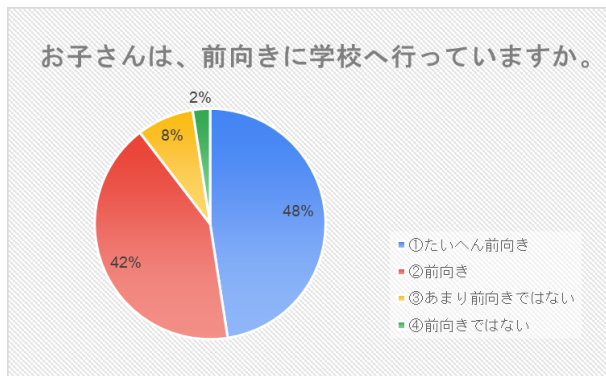
【低学年】



【高学年】



【保護者】

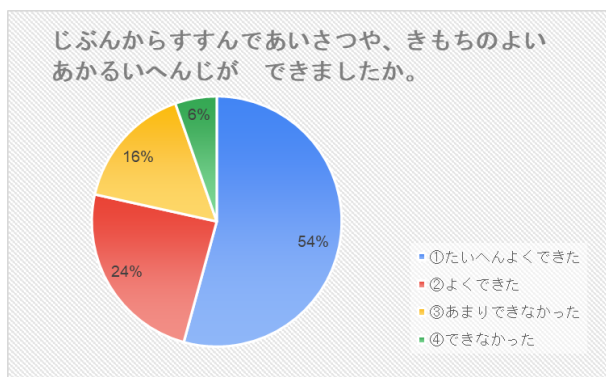


【考察】

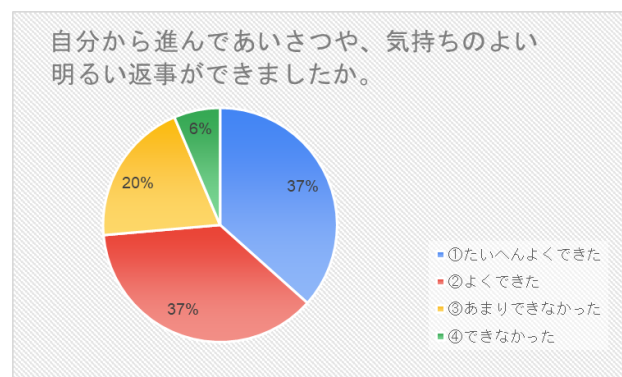
①と②の割合が低学年児童 89%、高学年児童 83%、保護者 90%と肯定的な評価の割合が高くなっている。一方で児童の③と④の割合が1割から2割程度いることから、さらに生活面、学習面ともに、子どもたちに寄り添い、子どもたちにとって居心地の良い学校づくりを進めていきたい。

2. 家族や地域の方に気持ちよいあいさつをしている

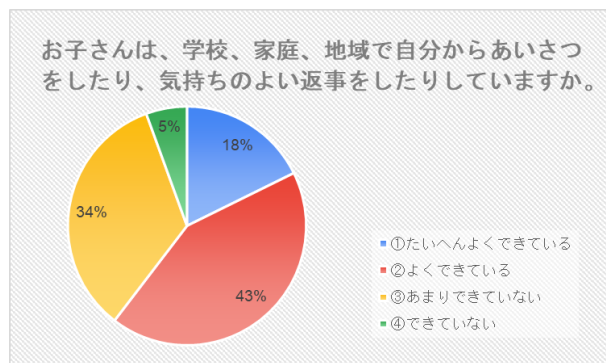
【低学年】



【高学年】



【保護者】



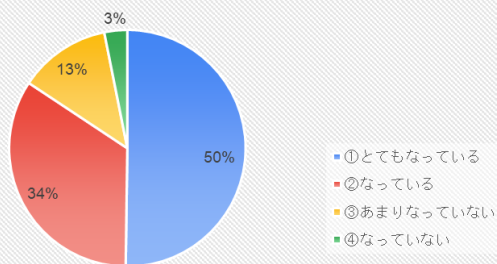
【考察】

児童は「あいさつができています」と回答した割合が多い一方、保護者の皆様からは③の回答が多数あった。学校内に限らず家庭や地域においても、あいさつができたことを認め、「自分からあいさつ」の意識を育てていきたい。

3. 人権教育

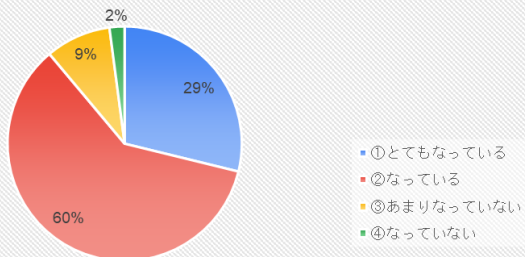
【低学年】

ひとをたいせつにしたじゅぎょうやがっこうせいかつになっているとおもいますか。



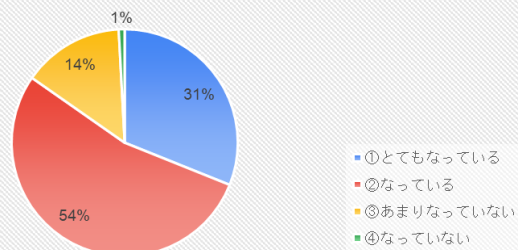
【保護者】

学校は、人権に配慮した授業や学校生活を送る場となっていますか。



【高学年】

人権に配慮した（人を大切にした）授業や学校生活が行われていると思いますか。



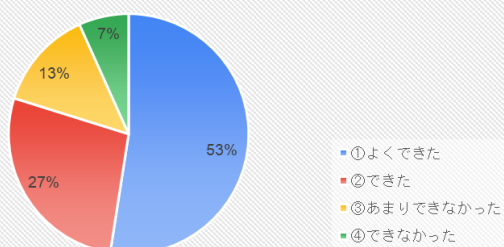
【考察】

児童、保護者ともに①と②を合わせると80%以上と高い割合となっている。このことも設問1の肯定的評価の高さに繋がっていると考ええる。引き続き、一人ひとりの存在を大切にした授業、学級づくりを心がけていきたい。

4. 家庭学習に自分から進んで取り組む

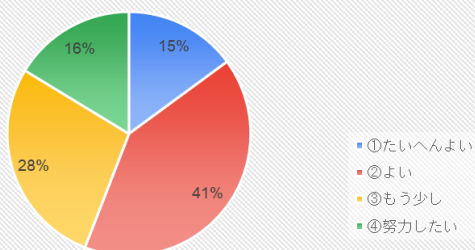
【低学年】

しゅくだい（じしゅがくしゅう）を、ていねいにやることができましたか。



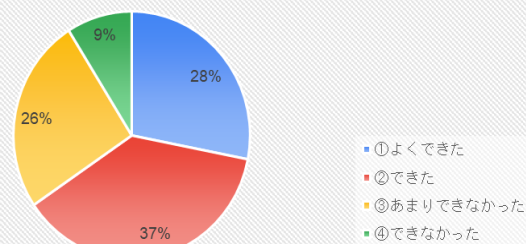
【保護者】

『家庭学習のてびき』をもとに、進んで家庭学習に取り組んでいますか。



【高学年】

宿題や自主学習を最後まで、ていねいにやることができましたか。

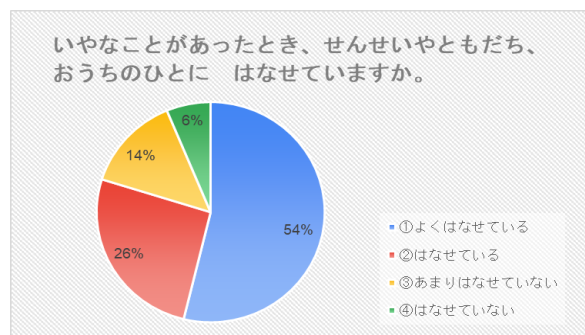


【考察】

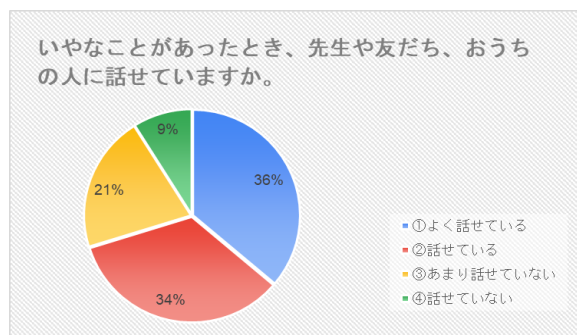
高学年になると、③の割合が増えてきている。保護者の方の③④の割合も多いことから、意欲的な取り組みや、計画的な取り組みの点で課題が見られる。児童の様子を見ながら、内容、量について考えていきたい。

5. 困ったときに相談できる先生や友達、家族がいる

【低学年】



【高学年】



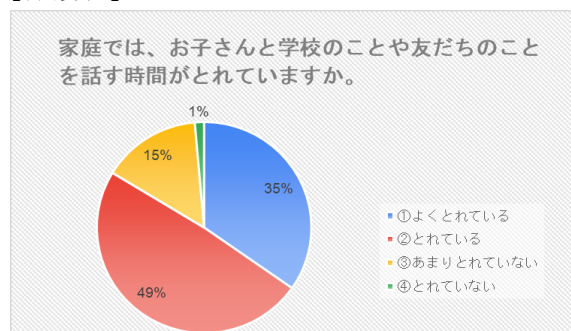
【児童】

【考察】

児童全体としては、①②の割合が 70～80%だが、高学年において③や④の評価が増える傾向が見られる。学校として子どもたちと真摯に向き合い、相談しにくさを感じている児童が少なくなるように努めていきたい。

6. 家庭で子どもと話す時間の確保

【保護者】

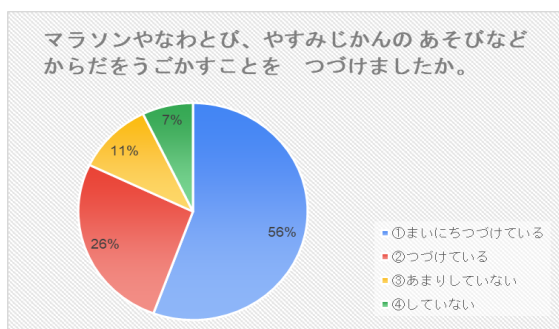


【考察】

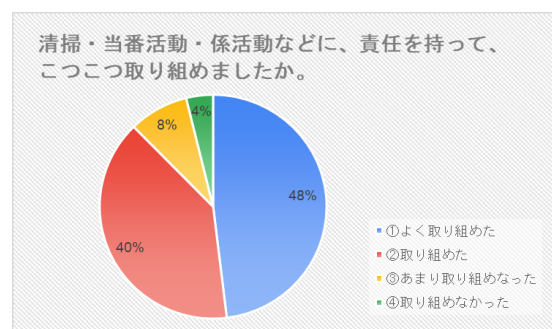
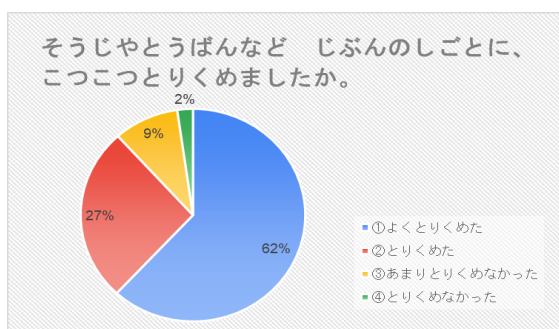
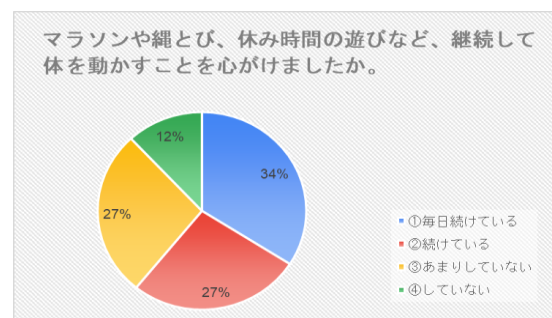
①②の割合が 80%以上と高いことから、ご家庭で子どもたちの話をよく聞いてくださっていることが分かりありがたい。引き続き、家庭と情報共有をしながら、子どもたちの心の安定が図れるよう努めていきたい。

7. 粘り強く継続して取り組む姿勢（責任感）

【低学年】



【高学年】



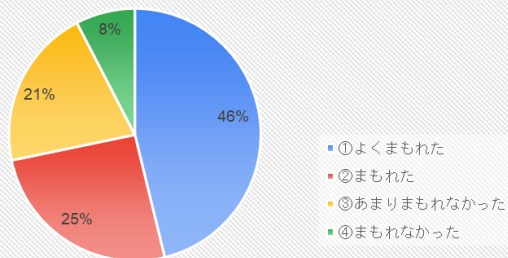
【考察】

コロナ禍も終わり、外で体を動かす児童が増えてきている。マラソン月間等の活動を通して、運動への意欲を継続させていきたい。今後も粘り強く取り組んでいる姿を褒め、真面目にこつこつ取り組む事の大切さを説いていきたい。

8. メディアコントロール

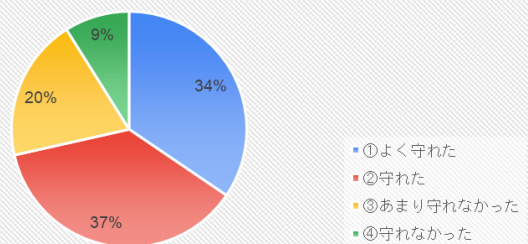
【低学年】

テレビやゲームなど、おうちのひととのやくそくを まもれましたか。



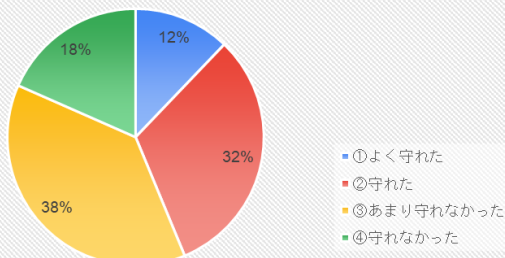
【高学年】

テレビやゲームなど、お家の人との約束を守れましたか。



【保護者】

ゲームやテレビ・パソコン・スマートフォン等の使い方のルールは守れていますか。



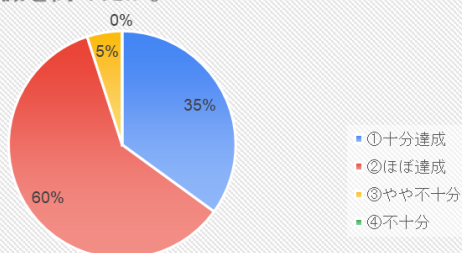
【考察】

児童と保護者の間で違いが見られる。メディアの与える影響について、日頃の授業や外部講師を招いての講演を通して、児童の自覚を促していきたい。

9. 地域との連携

【職員】

学校支援ボランティアとの連携 地域ボランティアとの連携を通して、読書・学習・体験活動・交通安全に対する意識を高めたか。



【考察】

学校生活の様々な場面で、地域ボランティアの方々にご協力いただいている。今後は、子どもたちとボランティアの方の交流する場面を増やし、地域とともに子どもたちを育てていく学社融合を進めていきたい。